

来年度に向けて、
よりよい学校運営を推進していくために
一中校区最終学校運営協議会を開催

第一中学校区の子どもたちに身につけた力は、大きく2つありました。

- 「確かな学力を身につけ、地域・社会に役立つととする子ども」
- 「人を大切にし、ふるさと境港を愛する子ども」

これら大きく2つを柱に、子どもたちの教育が学校という場にとどまらず、地域を巻き込んで、その中で、よりよい地域を担う人材を育てていこうとするものです。

特に、子どもたちは、地域の人材や素材とのかかわりを通して、

「自分の住んでいるまちって、いいなあ」

「こんな大人の人って、魅力的だなあ」

「こんな人みたいに、自分もがんばりたいなあ」

「地域のために自分もがんばりたい」

といった思いを少しでももてるよう、学校内外を問わず、学習や体験活動を展開してきました。

最終の学校運営協議会の冒頭部分での岩本会長は、本年度の成果と課題について、次のように紹介されました。



▲ 学校運営協議会での様子

【成果】

コロナ禍で、学校運営協議会として思った活動や協議が昨年度まで、なかなかできていなかったが、今年度は、地域の方々と6年生とのポッチャによる交流体験(境小学校)もできたり、また、これまで行ってきた「見守り・あいさつの活動」も中学校区内で継続的に行ったりすることができたのは、とてもよかった。

一個人としても、学校の校門前にあいさつに立つことで子どもたちとの対話もできるようになり、自分にとっての喜びにもなっている。みなさんのこうした小さな取組が、子どもたちにとっても、地域の人にとってもそれぞれ学びになり、地域づくりにもつながっていると感じている。

【課題】

数年前から、教職員と学校運営協議会委員との意見交換の機会をつくることや、小中学生の声を学校運営協議会に反映させる取組として熟議を計画していたが、本年度は学校事情で熟議を開催する機会が取れなかった。誠に、残念でした。

次年度に向けて、こうした機会をきちんと位置付けていきたい。

来年度に向けての事務局体制の整備

第一中学校区では、学校運営協議会やそのための準備会をはじめ、会合の調整や出席者への案内など、極めて、多くの事務手続きを行っています。こうした準備は、学校運営協議会の事務局校である第一中学校の先生にお世話になってきました。

しかしながら、事務局校への負担が大きいため、来年度からは、次のような形で行っていくことになりました。

◇学校事務局は、特定の学校のみでかかえるのではなく、境小学校・上道小学校・第一中学校で事務局担当を構成し、学校運営協議会の準備会合や学校運営協議会の進行、熟議等進め方など、事前の相談を行い、学校運営協議会の正副会長及び事務局担当学校長・地域学校コーディネーター等を交えて、検討会を丁寧に行っていくことを考えています。

◇来年度は、熟議も多様な形態や方法で実施を想定し、学校事務局担当者が分担をして、進行のあり方についても検討を行っていく方向で協議を行いました。

- 保護者・地域の方に学校及び子どもたちに関心を持ってもらいたい
- 広報を工夫し、CSの理解が必要

また、今回の学校運営協議会では、これまでの取組を振り返り、様々な意見が出されました。

中でも、「保護者・地域の方に学校及び子どもたちに関心を持っていただきたい」という声が学校から出ています。

年間、一中校区の各学校では参観日をはじめ、地域の方にも学校の子どもの姿を参観してもらい、学校から示されている子どもたちをめぐる課題や成長の姿をみて、ご意見を伺いたいという声も上がっていました。

さらには、学校運営協議会に子どもたちの声を反映させるために、中学生と委員との意見交換や生徒会からの提案を聞くなどの場もあってもよいという意見も出ました。

他にも、委員の中から、「学校運営協議会の動きや活動についての理解・周知のあり方を考えていく必要もあるではないか」「子どもたちや地域の中での姿や地域の方々のつながりの見える活動や協議内容等をSNSを活用して、もっと発信してはどうか」といった提案もみられるなど、活発な意見交換がされました。

来年度に向けて、課題を意識した取組が形となるよう、努めていく必要があります。

※新年度の各小中学校のPTA総会では、コミュニティ・スクールについての説明が現在の学校運営協議会委員の方により、行われる予定です。

